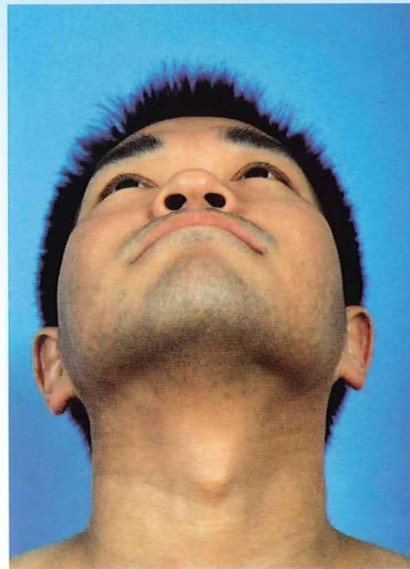


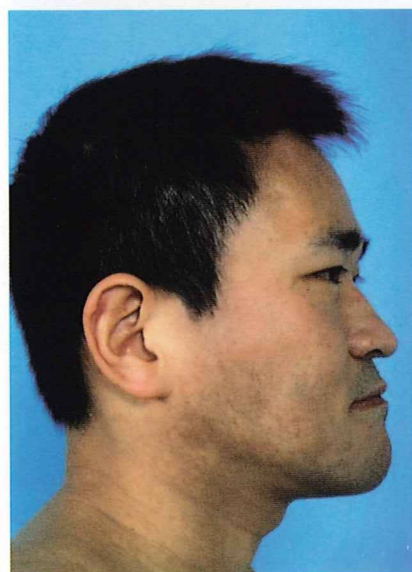
結果 4. 30歳代 男性。1994年から抗 HIV 薬剤の内服療法を開始しております。



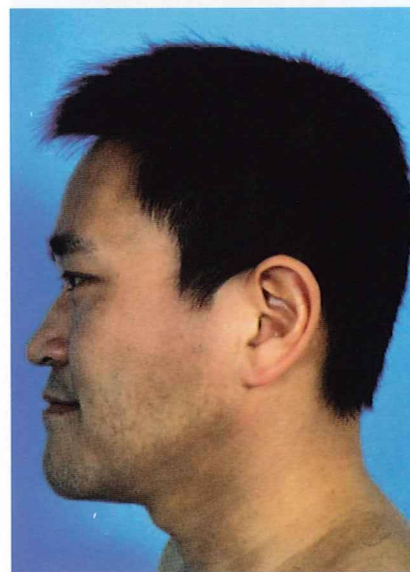
4-1  
平成20年



4-2  
平成20年



4-3  
平成20年

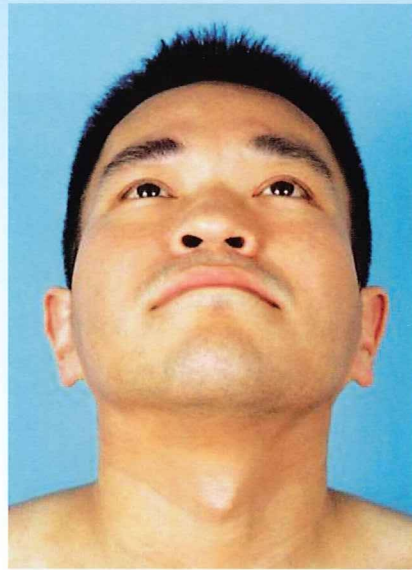


4-4  
平成20年

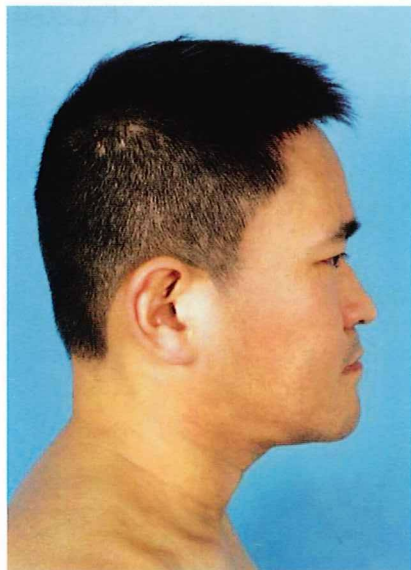
\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。



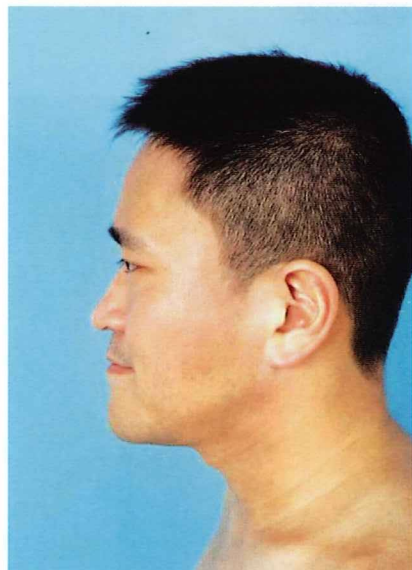
4-5  
平成21年



4-6  
平成21年



4-7  
平成21年

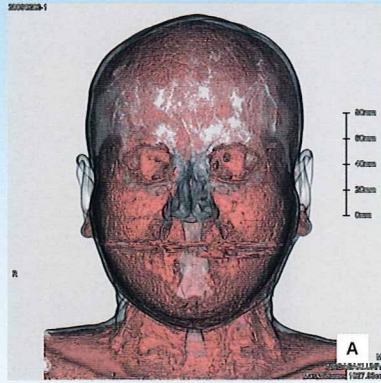


4-8  
平成21年

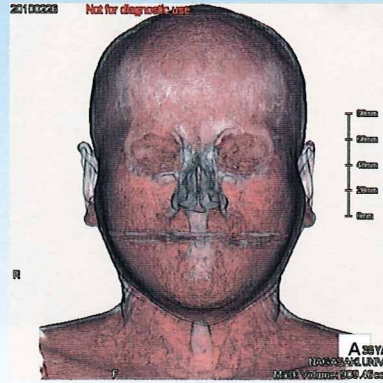
鼻唇口周辺の陥凹は平成20年度と比較してやや進行しているようです。

\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。

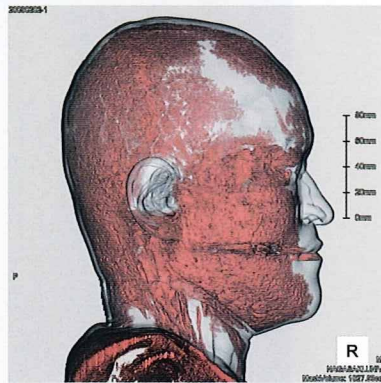
4-9  
平成20年



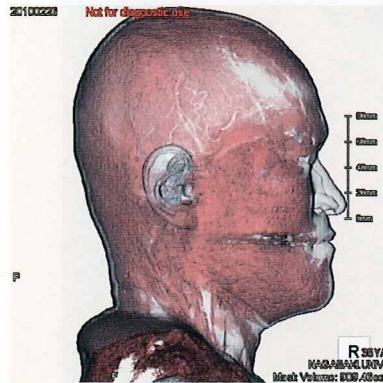
4-12  
平成21年



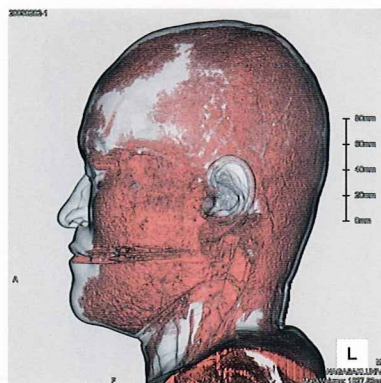
4-10  
平成20年



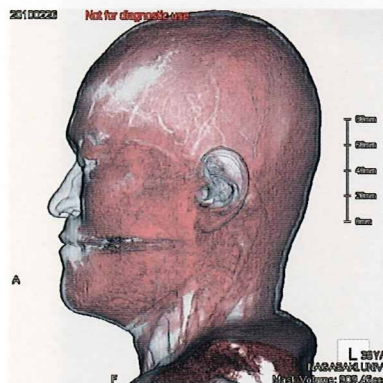
4-13  
平成21年



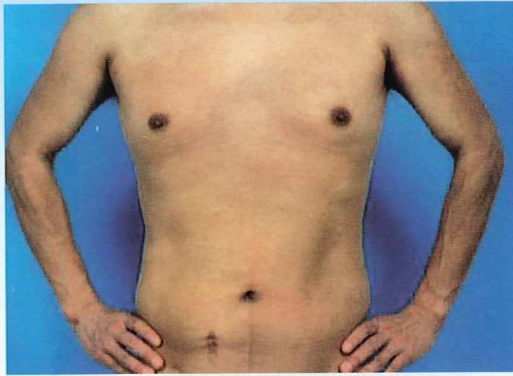
4-11  
平成20年



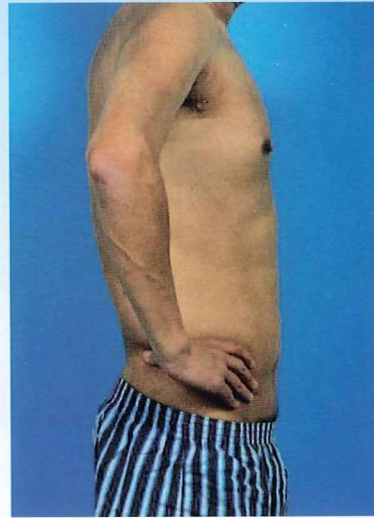
4-14  
平成21年



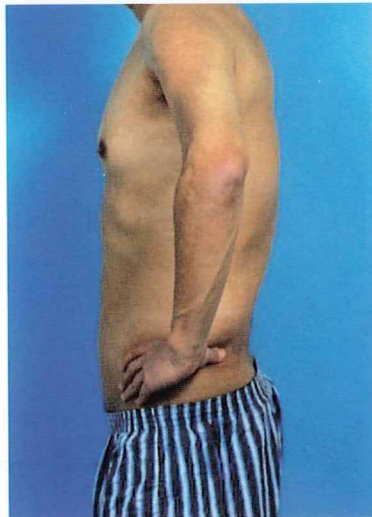
顔面 CT では側頭部、左頬部、上口唇周辺に脂肪組織を認めません。



4-15  
平成20年



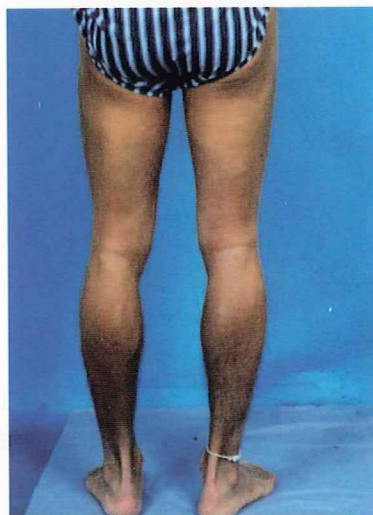
4-16  
平成20年



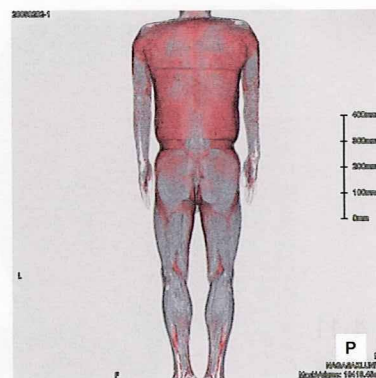
4-17  
平成20年



4-18  
平成20年



4-19  
平成20年

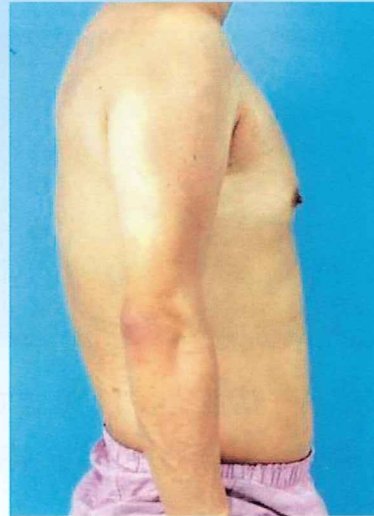


4-20  
平成21年

\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。



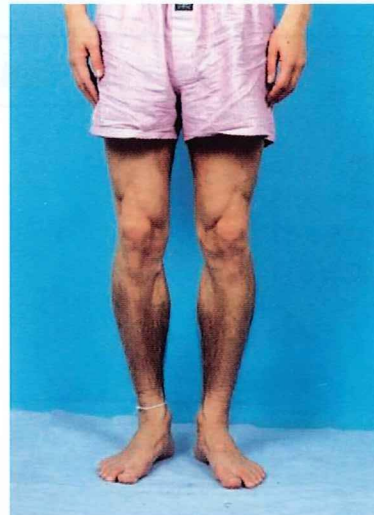
4-21  
平成21年



4-22  
平成21年



4-23  
平成21年



4-24  
平成21年



4-25  
平成21年

平成21年度では臀部で陥凹が増強し、上肢、下肢では末梢で皮静脈が目立ってきております。

**\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。**

II. 2名(30歳代、40歳代)の患者さんの自家脂肪組織由来幹細胞移植法により、顔面のリポアトロフィー(脂肪萎縮)治療いたしました。

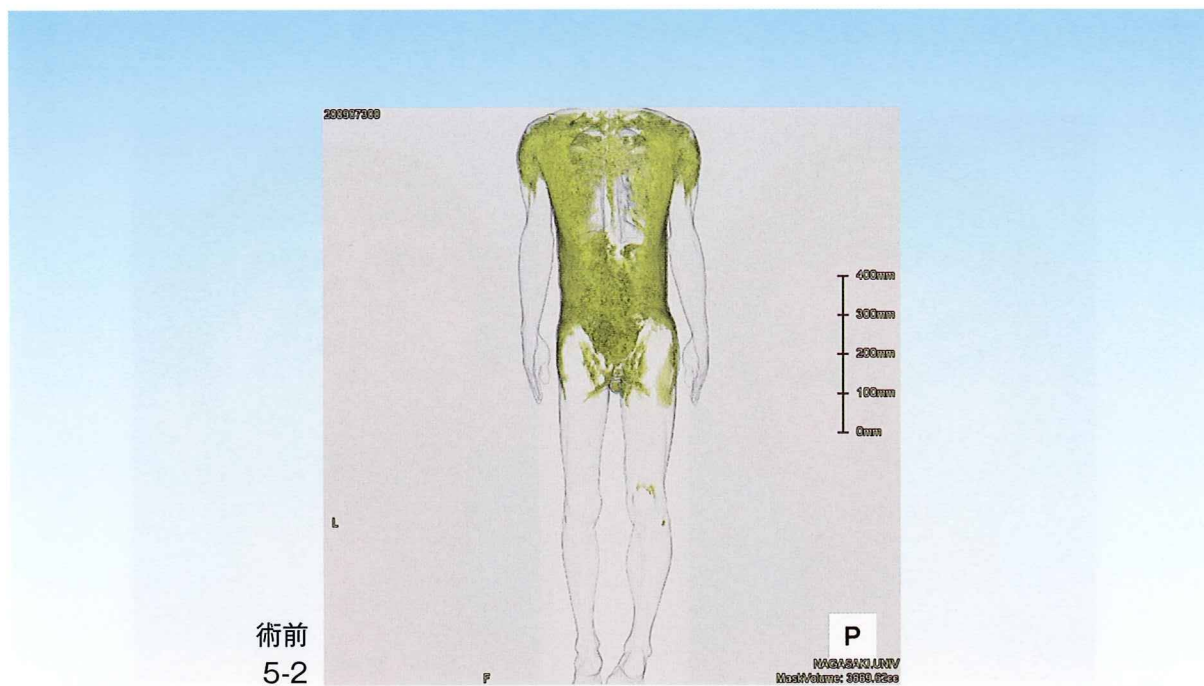
**結果 1.** 30歳代 男性。血友病 A であり、C 型肝炎の重複感染者。凝固因子の自己注射で管理中であり、当科に自家脂肪幹細胞移植について紹介受診となり、平成 21 年 9 月 18 日全身麻酔下にて、吸引脂肪細胞(25g)及び脂肪由来幹細胞移植( $5.0 \times 10^5$  個)移植を実施しました。本患者さんは全身性にリポアトロフィー(脂肪萎縮)を認めており、ドナー(吸引脂肪)採取量も限られておりました。

**術前:**第 VIII 因子活性値は 3.1 % まで低下しておりましたが、執刀直前に 3,000 単位補充、周術期 24 時間では 10,000 単位の持続投与、抜糸(術後 7 日)まで一日 1,000 単位~2,000 単位の補充をしました。

	日付(年/月/日)	時間(時:分)	第Ⅷ因子活性値(%)	投与量(単位)	速度(ml/hr)	体重換算(単位/kg/hr)
外来受診時	2009/8/18		13			
入院日	2009/9/15		3.1	1000 iv		
	2009/9/16					
	2009/9/17					
手術日	2009/9/18					
		投与前	19.7			
		投与後	103.8	3000 iv		
手術開始		11:06				
手術終了		15:15				
		17:00	94.7	6000 持続投与	1.3	5
	2009/9/19			4000 持続投与	0.8	1.6
		16:00	112.7		0.5	1
	2009/9/20	23:00		1000 持続投与	0.4	0.8
	2009/9/21	10:10		1000iv		
	2009/9/22	9:00		1000iv		
		21:00		1000iv		
	2009/9/23	9:00		1000iv		
		21:00		1000iv		
	2009/9/24	9:00	39.1	1000iv		
		21:00		1000iv		
抜糸	2009/9/25	9:00		1000iv		
		21:00		1000iv		

5-1

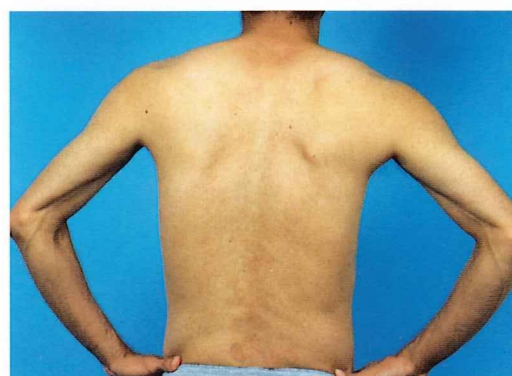
平成 20 年



術前  
5-2



術前 5-3



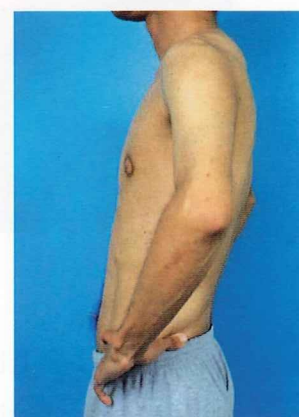
術前 5-4



術前 5-5



術前 5-6



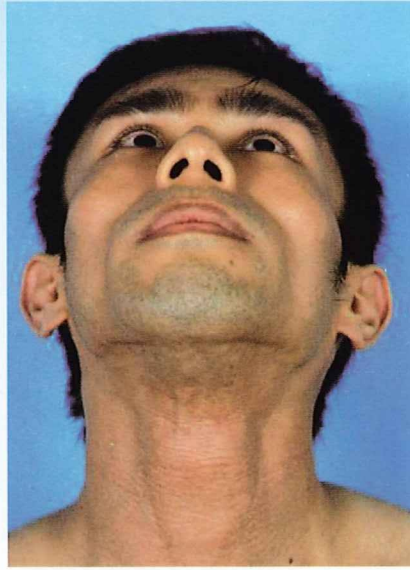
術前 5-7

ドナー（脂肪供給部位）は術前 CT（5-2）、臨床像（5-3～5-7）において、四肢のほとんどの脂肪を認めなかったため、臀部、側腹部に限定されました。

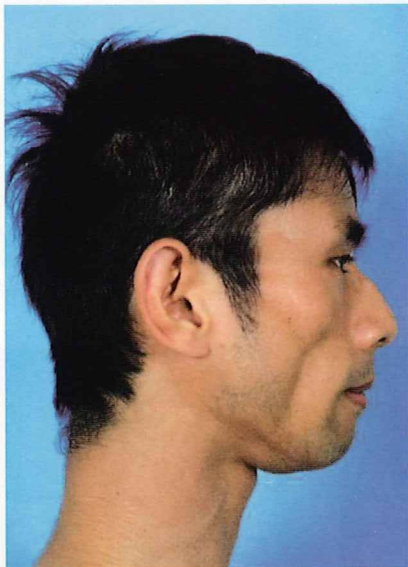
**\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。**



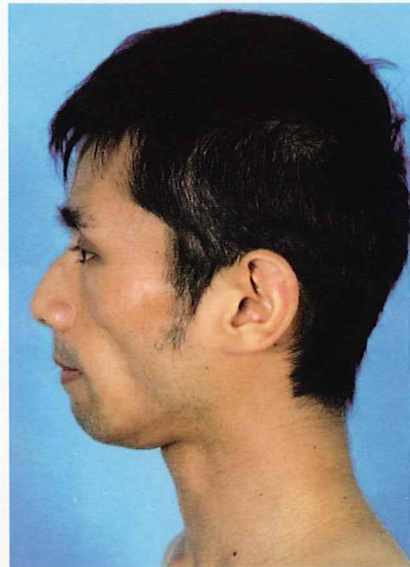
5-8  
術前



5-9  
術前



5-10  
術前

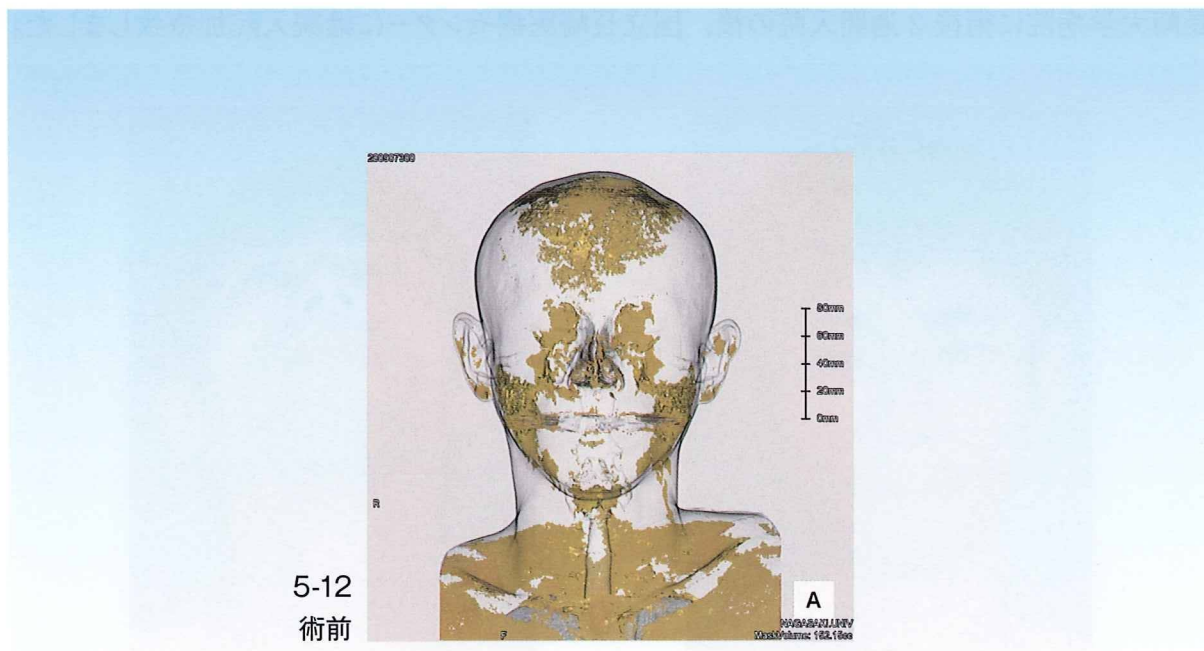


5-11  
術前

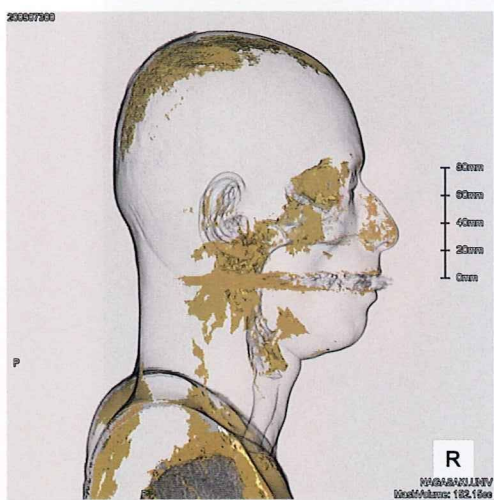
今回の手術の目標は鼻上口唇三角部、頬上口唇三角部の脂肪組織増量でありましたが、ドナーの制限があり、脂肪組織として25g、脂肪由来幹細胞として $5.0 \times 10^5$ 個を皮下に移植いたしました。

**\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。**

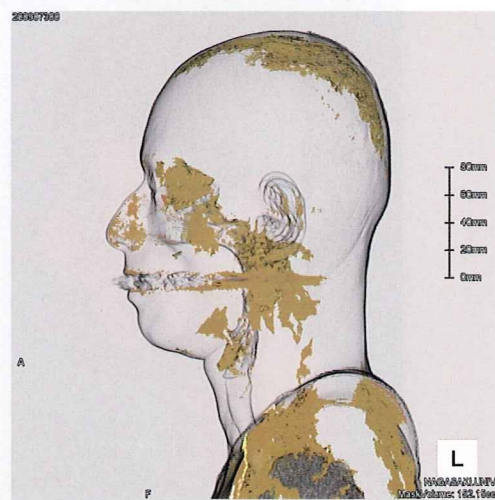




5-12  
術前



5-13  
術前



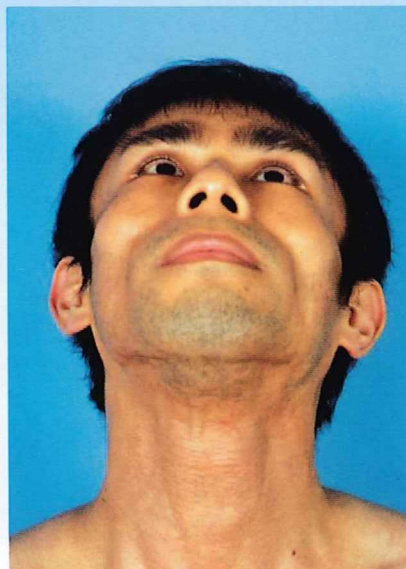
5-14  
術前

顔面 CT 上においても鼻上口唇三角部、頬上口唇三角部に脂肪をみとめませんでした。

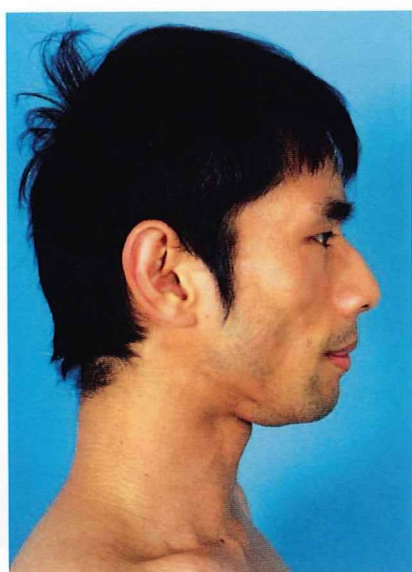
長崎大学病院に術後 2 週間入院の後、国立長崎医療センターに継続入院加療致しました。



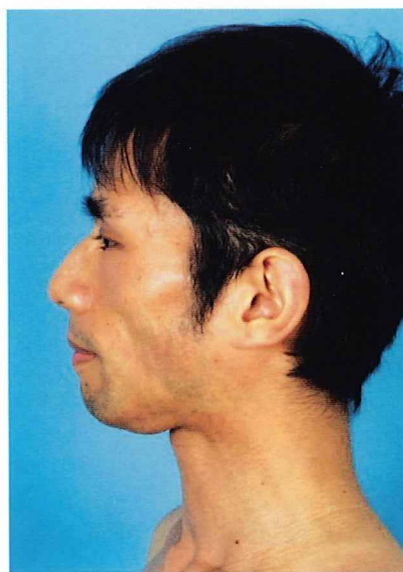
5-15  
術後3か月



5-16  
術後3か月

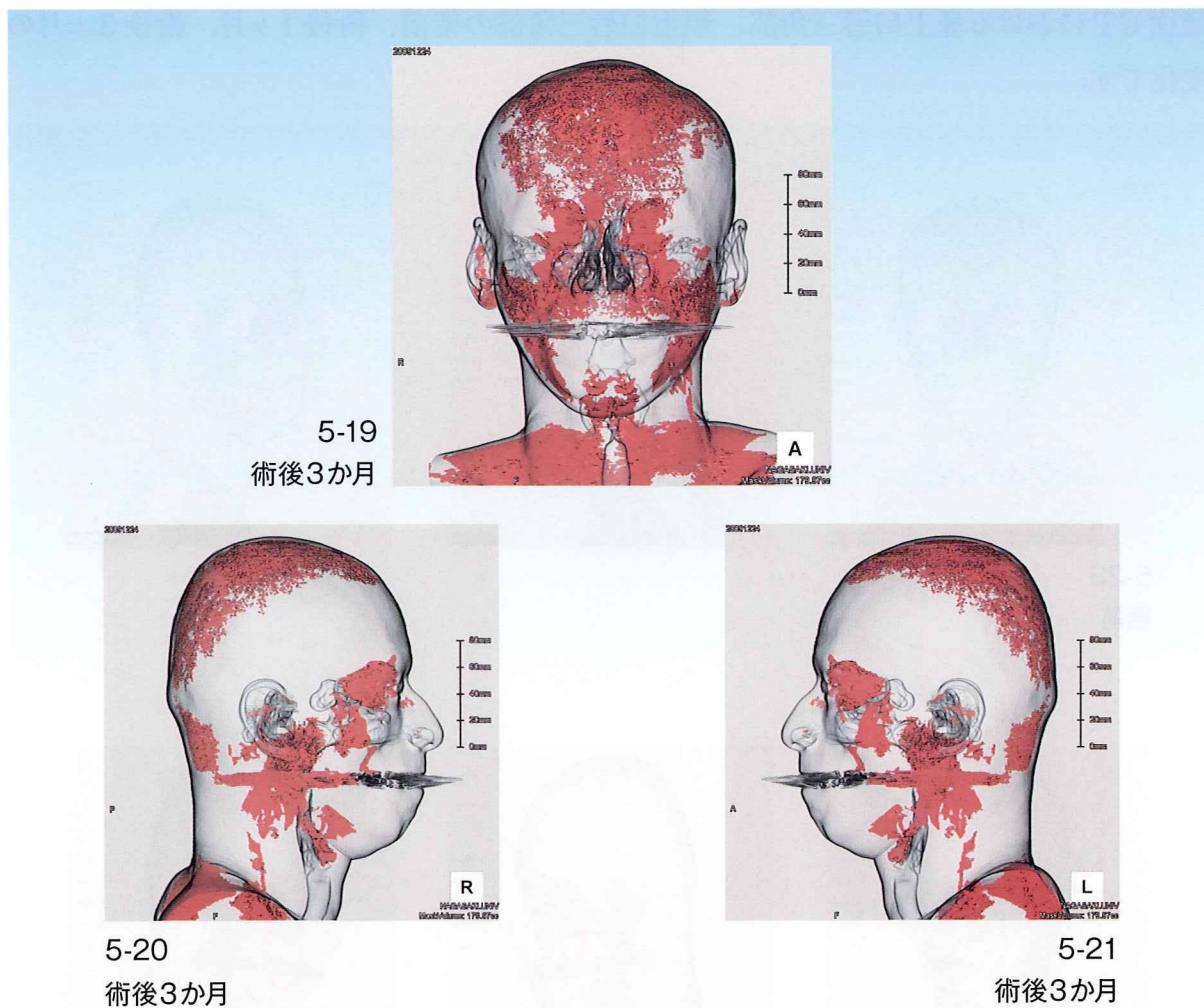


5-17  
術後3か月



5-18  
術後3か月

\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。



術後 3 ヶ月で頬上口唇三角部の臨床的改善が得られており、定量顔面 CT では術直前の当該部位の脂肪容積は 0.0754 ml であり、術後 1 ヶ月で 0.323 ml (430 %)、術後 3 ヶ月で 0.359 ml(480 %) と安定し、経時的にも増量が認められました。

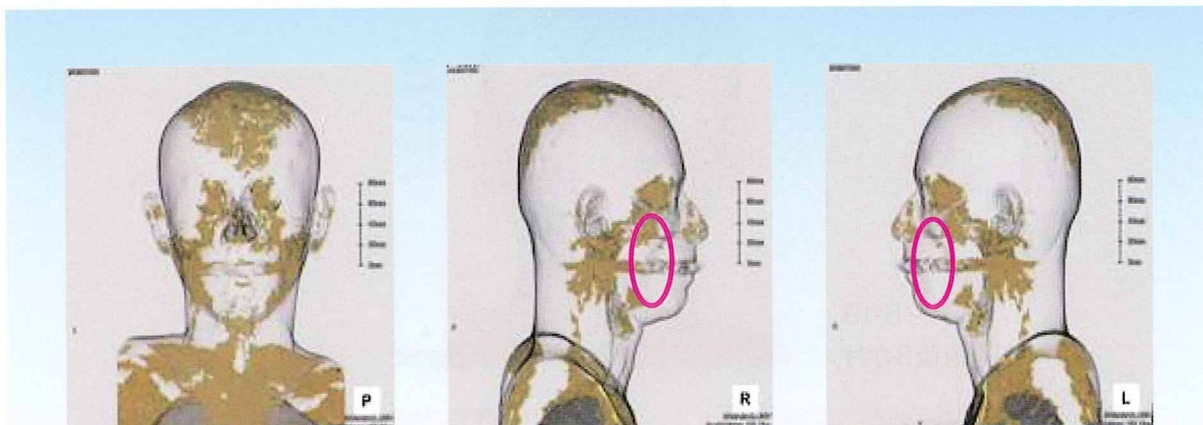


心配されたドナー部位（脂肪吸引部位）の皮下出血は最小限であり、機能的・整容的に全く問題ありません。

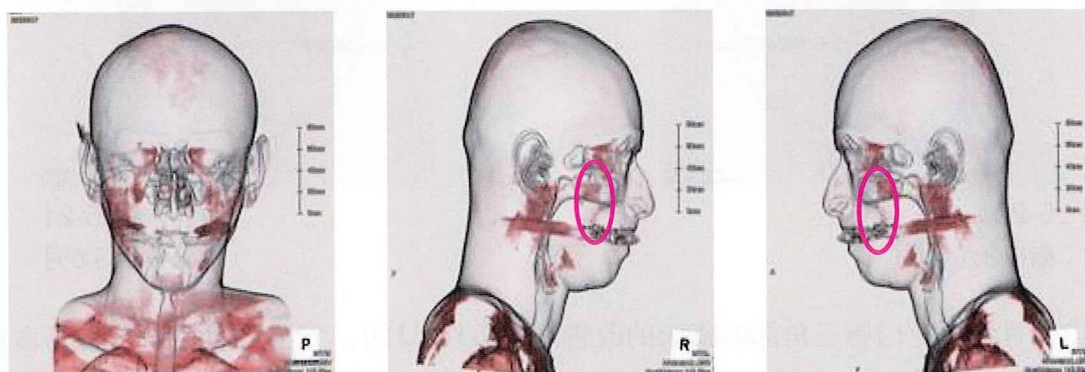
5-22  
術後3か月

\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。

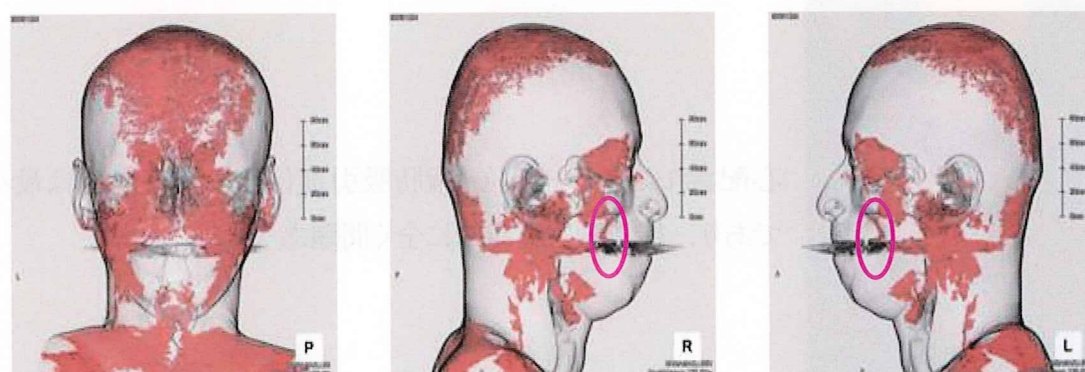
顔面 CT における鼻上口唇三角部、頬上口唇三角部の術前、術後 1 ヶ月、術後 3 ヶ月の  
変化です。



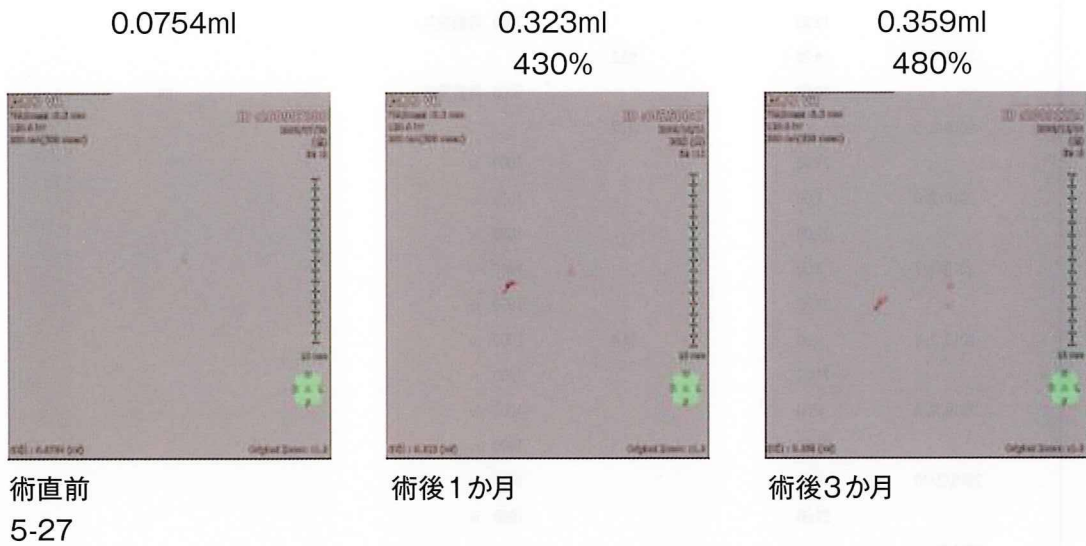
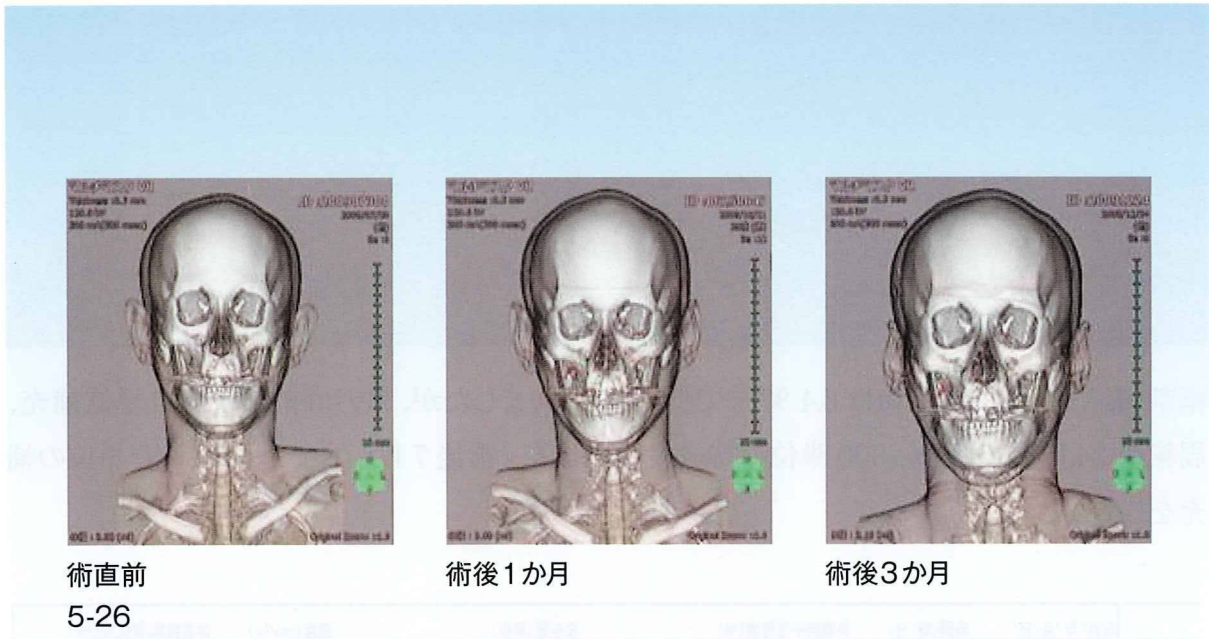
5-23  
術前



5-24  
術後1か月



5-25  
術後3か月



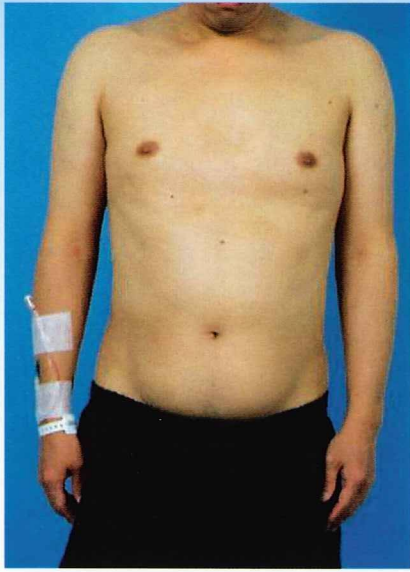
尚、この患者さんの皮下脂肪 CT の黄色、赤は共に脂肪を表現し、色の差による質的・量的区別はありません。

**結果 2.** 40歳代 男性。血友病 A であり、C 型肝炎の重複感染者。甲状腺機能低下症もあり、甲状腺ホルモン内服中。凝固因子の自己注射で管理中であり、当科に自家脂肪幹細胞移植について治療希望し、平成 22 年 2 月 3 日全身麻酔下にて、吸引脂肪細胞 (277 g) 及び脂肪由来幹細胞移植 ( $3.9 \times 10^6$  個) 移植を実施しました。本患者さんはリポアトロフィー (脂肪萎縮) とリポディポジション (脂肪蓄積) の混在型で、体幹ドナーからは後頸部の hump を含めて比較的多めの吸引脂肪が採取できました。

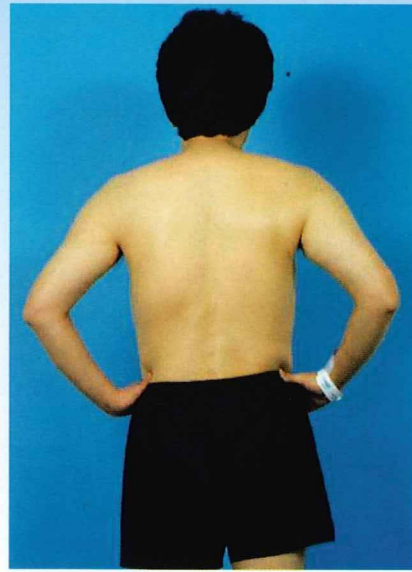
**術前:**第 VIII 因子活性値は 6.4 % まで低下しておりましたが、執刀直前に 3,000 単位補充、周術期 24 時間では 15,000 単位の持続投与、抜糸 (術後 7 日) まで一日 2,000 単位の補充をしました。

	日付(年/月/日)	時間(時:分)	第Ⅷ因子活性値(%)	投与量(単位)	速度(ml/hr)	体重換算(単位/kg/hr)
院日	2010/2/1					
	2010/2/3	9:20	6.40			
		9:35		3000 iv		
		10:05	105.4			
		10:10		2000 持続投与(500U製剤)	2.8	4.5
術開始		11:54				
		12:30	75.6	1000 iv		
術終了		16:18	101.2			
		18:30		7000 持続投与	1.4	4.5
	2010/2/4	9:20	93.2			
		19:00		5000 持続投与	1.4	4.5
	2010/2/5		132			
		21:00		1000 iv		
	2010/2/6	9:00		1000 iv		
		21:00		1000 iv		
	2010/2/7	9:00		1000 iv		
		21:00		1000 iv		
面抜糸	2010/2/8	9:00	54.4	1000 iv		
		21:00		1000 iv		
	2010/2/9	9:00		1000 iv		
		21:00		1000 iv		
抜糸	2010/2/10	9:00		1000 iv		
		21:00		1000 iv		
	2010/2/11					
	2010/2/12		20.8			
	2010/2/13					
	2010/2/14					
	2010/2/15					

6-1



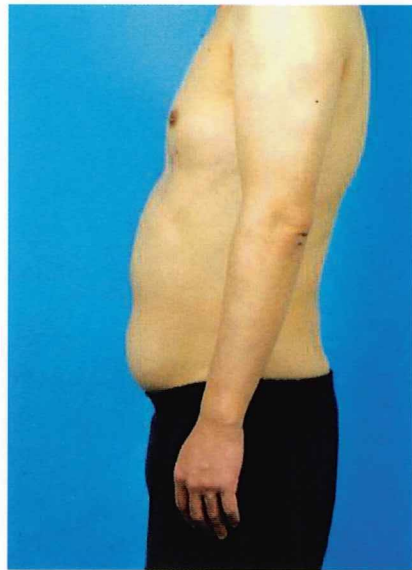
6-2  
術前



6-3  
術前



6-4  
術前



6-5  
術前

\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。



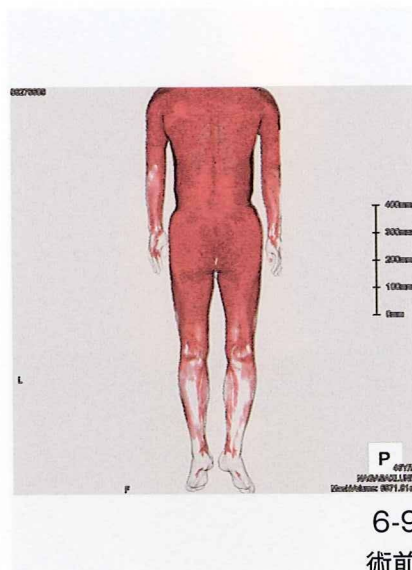
6-6  
術前



6-7  
術前



6-8  
術前



6-9  
術前

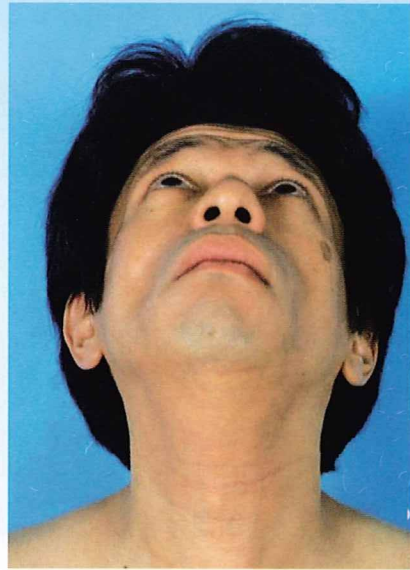
ドナー（脂肪供給部位）は大腿内側部、臀部、側腹部からの脂肪吸引と、後頸部の hump から吸引採取しました。

\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。





6-10  
術前



6-11  
術前

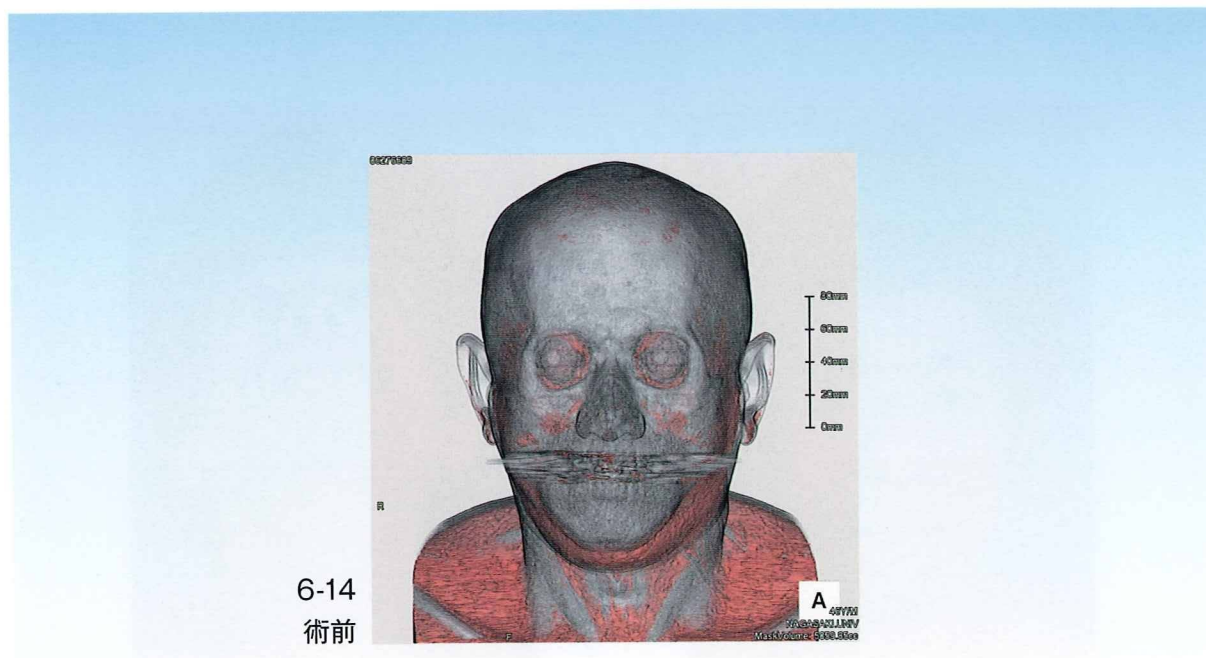


6-12  
術前

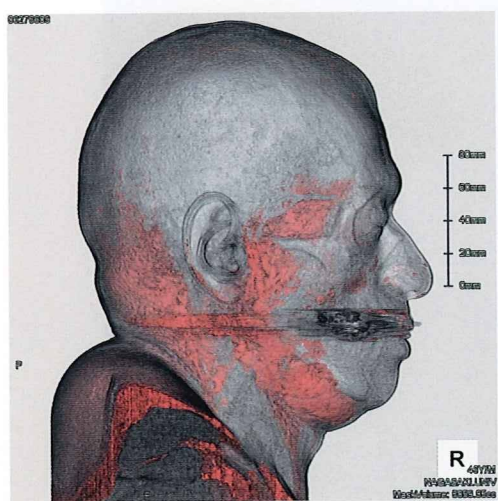


6-13  
術前

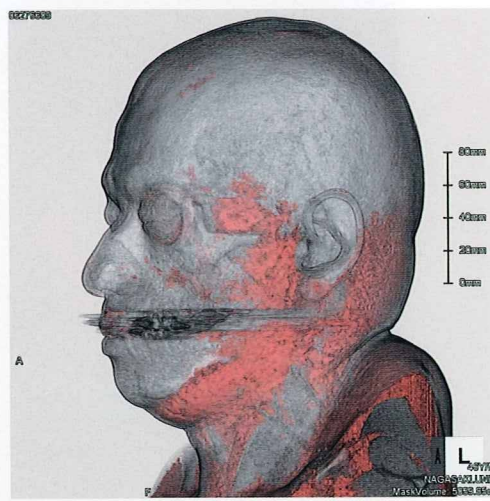
\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。



6-14  
術前



6-15  
術前



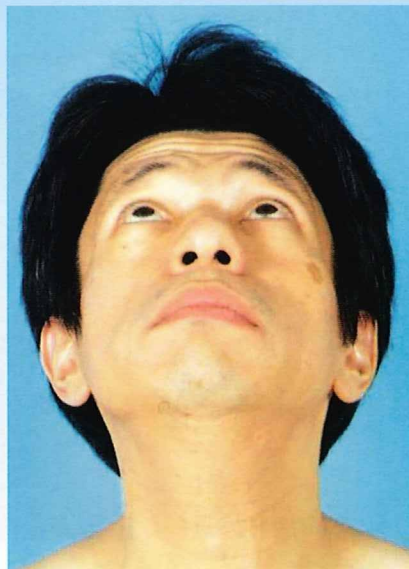
6-16  
術前

今回の手術の目標は鼻上口唇三角部、頬上口唇三角部、耳下腺三角部の脂肪組織増量でありましたが、脂肪組織として 77 g、吸引脂肪 200 g から分離精製した脂肪由来幹細胞を  $3.9 \times 10^6$  個を皮下に移植いたしました。

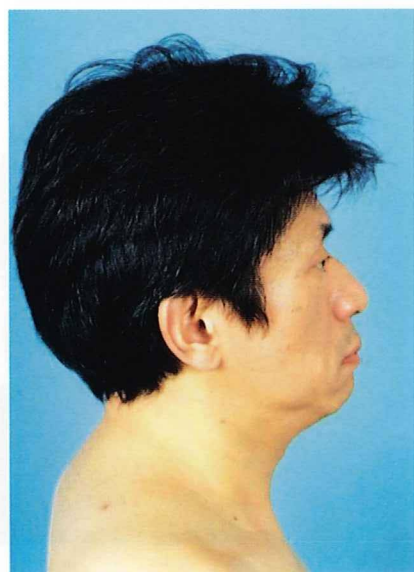
長崎大学病院に術後 2 週間入院の後、国立長崎医療センターに継続入院加療致しました。



6-17  
術後1か月



6-18  
術後1か月

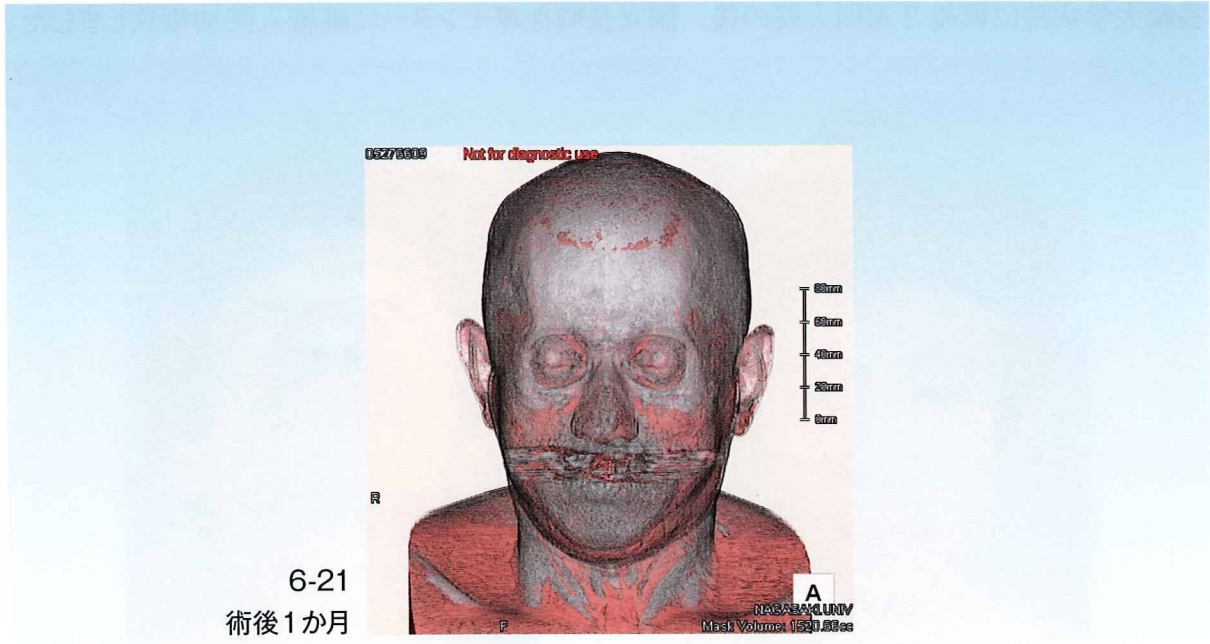


6-19  
術後1か月

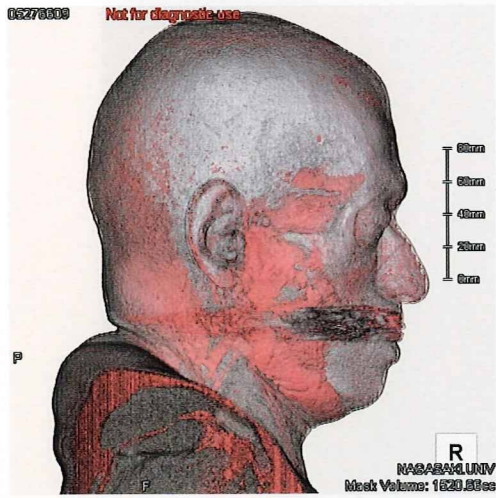


6-20  
術後1か月

\* 患者さんのご厚意により、臨床写真の掲載許可を受けております。



6-21  
術後1か月



6-22  
術後1か月



6-23  
術後1か月

術後1ヶ月で鼻上口唇三角部、頬上口唇三角部の臨床的改善とCT像での著明な脂肪増量が鼻上口唇三角部、頬上口唇三角部、耳下腺三角部に得られています。